

# 中海・宍道湖等水産資源管理対策事業 シジミ天然採苗試験

中村幹雄・山根恭道・角 敬・安木 茂・松本洋典

平成元年～平成2年にかけて実施したシジミ天然採苗試験をもとに、水産試験場三刀屋内水面分場の指導によって宍道湖漁業協同組合が大規模な天然採苗の施設を設置し、水産試験場と宍道湖漁協の共同試験研究としてシジミの天然採苗事業を実施したので報告する。

## 材 料 と 方 法

### 1. 実施期間

1992年5月30日～1992年10月3日

### 2. 設置地点

設置地点は図1に示したとおり、宍道湖の湖心に設置されている建設省自動水質観測所を中心として、東西南北の地点において東から西に向かって設置した。

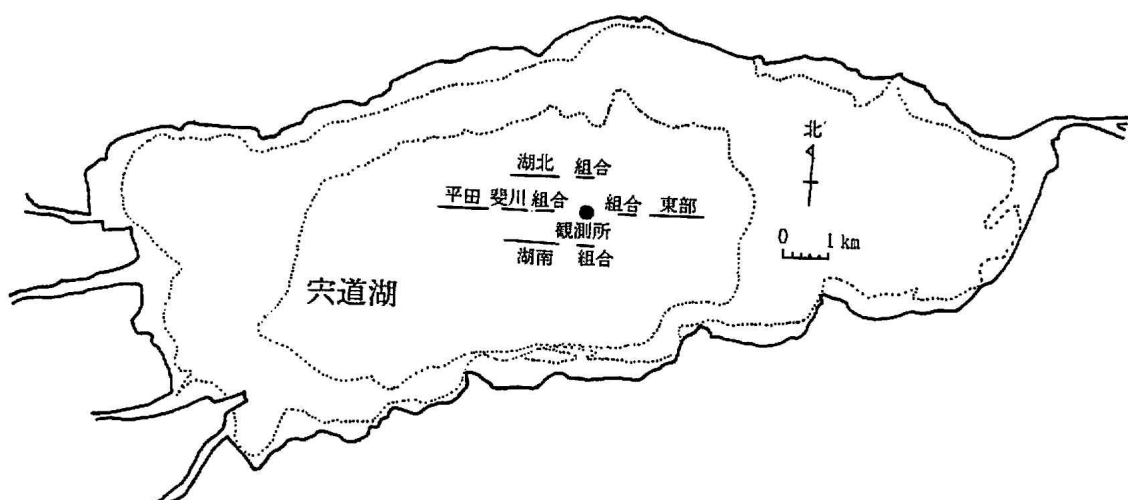


図1 天然採苗設置場所

### 3. 採苗器の設置方法

採苗器の作成はシジミ組合の役員が主体となり、宍道湖漁協の指示によって行なわれた。

採苗器の設置方法は図2に示したとおりであるが、採苗器の構造は外袋（目合1mm）と中ネット（目合1.5mm）で作成し、長さ5.5mのロープに50cm間隔で8個の採苗器を取付けたものを、長さ60mのロープに36列ぶらさげる形でセットした。

このものを宍道湖湖心の4箇所（採苗器の総個数は1,152個）に設置し、シジミの幼生が付着するのを待った。また、各地区のシジミ漁業者によって同様な施設を6箇所（採苗器の総個数は1,728個）設置され、今回の天然採苗試験で設置された採苗器の総数は2,880個である。

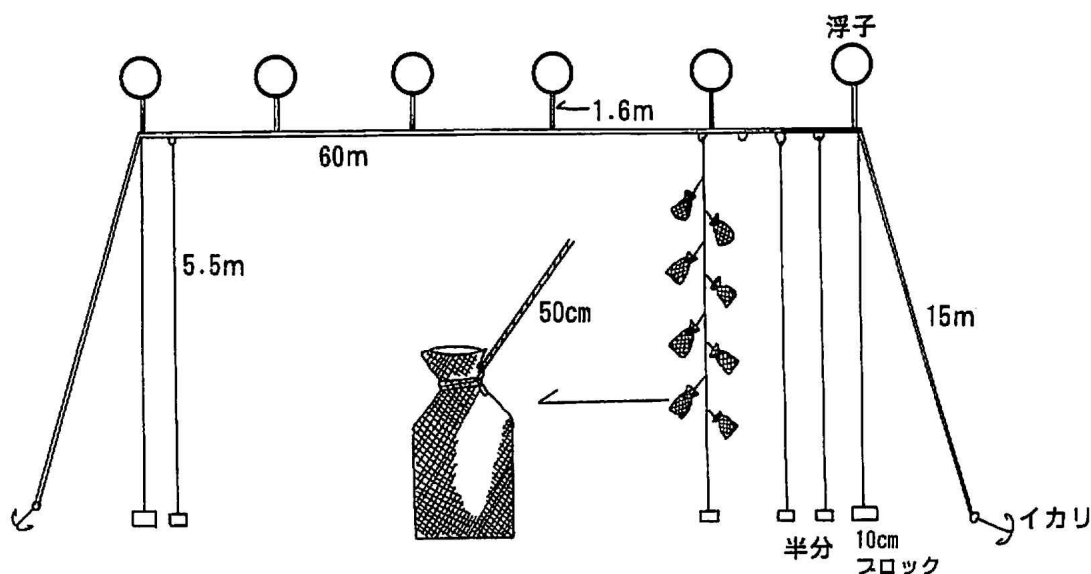


図2 天然採苗施設

## 結果と考察

平成4年5月30日に設置した採苗器1～2個を、月1回の定期調査時に回収し稚貝の付着状況を見た。

一ヶ月後の7月には肉眼で確認出来ない0.2mm程度の稚貝が、推定で一袋当たり2,000個程度確認された。

二ヶ月後には肉眼でもはっきりと確認できる0.7～2mmの大きさに成長していた。また、その数は3,000個程度であるが、さらに前回の調査以後に付着したと思われる、肉眼では確認出来ない0.2mm

程度の稚貝が3,000個程度確認された。

三ヶ月後の9月には1～5mmの大きさに成長した稚貝が8,000個程度確認されたが、さらに前回の調査以後に付着したと思われる、肉眼では確認が出来ない0.3mm程度の稚貝が1,000個程度確認され、まだシジミの産卵が続いていることが確認された。

四ヶ月後の施設を設置してから126日後には2～7mmに成長し、数も一袋当たり10,000個確認された。

平成4年10月3日に宍道湖の湖心で採集された稚貝を、宍道湖東部・南部・西部・北部に分け放流を行なった。稚貝の総個体数はこの4つの施設全体で1,100万個と推定され、各地区のシジミ組合で設置した施設の稚貝をあわせると、今回の事業によってその数は推定ではあるが3千万個の稚貝が、宍道湖周辺の湖岸部に放流された事になる。

今回の天然採苗試験によって、この採苗方法で大量のシジミの稚貝を得ることが実証され、更に採苗器を増設することによって、大量の稚貝を確保できると考えられる。